

腔式子宮全摘術、膣会陰形成術 を受けられる方へ

患者ID: _____ 氏名: _____ 病棟: _____
 主治医: _____ 担当医: _____ 受持看護師: _____

	入院日	手術前日	(手術前)	手術当日	(手術後)	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	手術後4日目	手術後5日目	手術後6日目～退院
目標	手術の受け入れができています。 手術前の検査が済んでいる。	体温・血圧・脈拍が安定している。 手術の説明が分かる。	体温・血圧・脈拍が安定している。 痛み止めを使って、痛みをやわらげます。 合併症がなく経過できる。			傷から出血がない。痛み止めを使って、痛みをやわらげます。病棟内歩行ができる。				傷に赤み・腫れ・痛みがない。 退院後の生活の注意点、外来受診の必要性もわかる。	
説明	看護師から、入院生活や手術前後の経過や処置について説明します。 	(主治医より) 手術について説明します。 (麻酔医より) 麻酔、手術前の食事や水分摂取について説明します。 同意書をお渡します。署名後、看護師にご提出ください。 	ご家族は、手術に出る時間までには病院にお越し下さい。 	主治医から、手術の結果について説明があります。 	医師の記入が必要な書類などありましたら、平日日中に1階玄関ホールにある診断書受付までお出しください。 						(看護師より) 退院後の生活について説明します。 (主治医より) 退院後の外来受診や服薬などについて説明します。
検温	適時	1回	6時・手術室へ行く前	帰室時 1,2,3,6時間後 それ以後翌日6時まで 4時間毎(指示有り)	4回	4回	2回	1回	1回	1回	
排泄	15時から尿量測定を始めます。	尿量測定を続けてください。	尿量測定を続けてください。	手術中、尿道カテーテルを入れます。	排便は歩けるようならトイレに歩きます。 排便の時は看護師を呼んでください。					医師の許可があれば、尿道留置カテーテルを抜きます。 尿量測定を続けてください。	(術後7日目) 尿量測定は15時で終了です。
処置		陰毛のカットをします。 夕食後浣腸があります。	朝、6時以降浣腸があります。 午後より手術の場合、朝より点滴があります。 	手術室より酸素を付けて帰室します。 背中に痛みどめのチューブが付いてくる場合があります。 点滴は主治医の指示あるまで持続します。	採血、採尿があります。 朝、酸素投与を中止します。 医師の診察があります。 点滴は夕方まで持続。	動けるようになったら、弾力ハイソックスを脱ぎます。 痛みどめがなくなれば、背中にある痛み止めのチューブを抜きます。 	採血、採尿をします。			(術後6日目) 採血、採尿をします。 医師の診察があります。	
準備	必要物品を購入してください。 T字帯1枚・ナプキン1枚を看護師がお預かりします。	身の回りの荷物は一つにまとめておき、床頭台上にナプキン1袋、パンツ1枚、体温計、ティッシュ等をセットしておいてください。	朝起きたら、弾力性ハイソックスを履き、病衣に着替えておいてください。 下着はパンツのみつけます。							 何でもご相談ください!	
投薬	内服している薬は続けて服用してください。手術のため、内服薬をお預かりします。 寝る前に緩下剤の内服があります。 	麻酔科医の指示により内服薬を一時お預かりします。 眠れない時は眠剤の内服が出来ますのでお申し出ください。 	麻酔科医の指示で手術前に安定剤の内服がある場合があります。	術後、喉の痛みにはトローチをお渡しします。 	10時より腸の動きをよくする漢方薬を飲み始めます。 						
安静	制限ありません。			ベッド上安静。膝を立てたり腕を動かしたりはかまいません。 体の向きも変えても構いませんが、難しいときは看護師が介助します。	病室内は歩行可能です。最初は看護師が付き添います。	病棟内は制限ありません。					
食事	制限ありません。	昼食より低残渣食となります。	食事は食べられません。 水分摂取は麻酔科医の指示に従って下さい。 		朝から水分開始、昼から重湯が開始になります。	昼から5分粥になります。  昼から全粥です。	昼から普通食です。				
清潔	入浴可能です。				体を拭いて、お下を洗います。お手伝いしますが、出来る範囲で自分でも拭くようにしましょう。 着替えもします。	体を拭くタオルをお持ちします。 出来る範囲で自分でも拭くようにしましょう。 トイレでウォッシュレットをご使用ください。 				シャワー-浴開始です。 	